

平成29年度
宇都宮短期大学附属高等学校入学試験問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は、板書されている時間割のと通りの50分間です。
- 3 問題数は大きな問題が4問で、表紙を除いて10ページです。〔四〕は記述問題です。
- 4 解答用紙は2枚で、答え方はマークシート方式と記述式です。
- 5 監督者の指示にしたがって、試験開始前にマークシート冊子から解答用紙を切り離し、受験番号のマーク欄を確認後、氏名を決められた欄に書きなさい。
- 6 監督者の指示にしたがって、試験開始前に受験番号と氏名を記述用解答用紙の決められた欄に書き、さらにバーコードシールを決められた枠の中に貼りなさい。
- 7 答えは、それぞれの解答用紙に記載されている注意事項にしたがって、ていねいに記入しなさい。
- 8 試験中に質問があれば、手をあげて監督者に聞きなさい。
- 9 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおきなさい。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

深層心理学はその創設のとき以来、民話に関心をもち続けている。それはいったいどうしてだろうか。

民話のなかで、主人公はまったくの閉塞状況に追いこまれていることが多い。(a)閉塞状況を打ち破るものとして期待されているときもある。(注1)ヘンゼルとグレーテルは魔女にとらえられているし、グリム(注2)の「蛙の王様」では、王女は蛙に結婚を迫られて困惑してしまっている。わが国の民話でも、山うばに喰われそうになったり、継母にいじめられたりして、主人公は窮地に追いこまれた状況になっている。

これらは(b)^①荒唐無稽のように思えるが、少し観点をかえてみると、ノイローゼの状態の人にびつたりすることが多い。母親の「食いもの」にされたり、母親に「とらえられ」たりしている子どもなど、沢山いるのではなからうか。結婚の約束をうっかりしてしまった後で、相手が「蛙」のように嫌な奴であることに気づいて困っている人など、(c)、沢山いるかも知れない。

民話を馬鹿らしいと思う人は、民話に出てくるような龍とか魔女とか、そんなものがあるはずはないと言う。しかし、たとえば、尖端恐怖というノイローゼになっている人は、尖ったものが勝手に自分の目にささったりはしないことを(d)知っている。そんなことは絶対ないと解っていないながら、尖ったものを見ると恐ろしく

て身動きできなくなるのである。尖ったものは、その人にとって「龍」なのである。それではそれをどのようにして退治するか。それがすなわちノイローゼの治療であり、民話は、それに対するいろいろな解決策を与えてくれるのである。

「蛙の王様」では、蛙に迫られた王女はたまりかねて、蛙を壁にぶち当ててしまう。

A あるいは、それがそれほどの「決定的瞬間」であることを、われわれは意識しないのだが、実のところはそれだけの重みをもったものであることを、心の深層では感じとっているのではなからうか。

B そうすると、蛙が立派な王子様に変身して、ハッピー・エンドがおとずれる。

C このような「決定的瞬間」は、われわれの人生において、誰もがある程度、経験しているのではなからうか。

D 王女が蛙をつかんで投げつけるとき、そこに決定的な変化が生じるのである。

このように考えてくると、別にノイローゼであるとかないとかに關係なく、人間が生きてゆく上において体験する決定的瞬間を、われわれがはつきりとは意識していないときでさえ、民話は生き生きとそれを描いてくれていると言えないであろうか。^③子どもの誕生にまつわるいろいろな「異常」な話は、われわれが子どもの誕生に對

して抱く、大きい期待をうまく描いているように思われる。桃から生まれた桃太郎とか、竹の中から光を発して現れたかぐや姫などの姿が、それを示してくれている。

このことは、また次のようにも考えられる。子どもの誕生は「新しい可能性の出現」とも読みかえられる。われわれが新しい可能性にむかって挑戦しようとするとき、それは子どもの誕生として描き出すと、一番びつたりであると考えられる。民話のなかの登場人物が平板であるということは、よく言われることである。しかし、これらの登場人物を一人一人の人間としてみるのではなく、そのすべてを、^④一人の人間の内界に生起している群像としてみる方が適切ではなからうか。つまり、桃太郎を一人の人としてみるのではなく、おじいさんもおばあさんも鬼たちも、すべてが一人の人間の内界に住むものとしてみるのであり、桃太郎は新しい決意の誕生として、鬼たちはそれを妨害するものとして、読みとることができるのである。

^⑤「蛙の王様」の王女が蛙を壁にたたきつける瞬間は、従って、ある内的な決意の瞬間をあらわすものであり、実際に蛙を一匹殺すことよりは、意味深い行為を告げているものと思われる。それは、あるいは、ある女性が何かを放棄することを決意したり、何かと対決することをやり抜いたりすることを意味しているかも知れない。このように考えてゆくと、一見、荒唐無稽に見える民話の世界が、われわれ人間の深層を描き出していることに気づくのである。

日常生活において、われわれがあまり意識することなく行つて

いることや、あるいは、一面的な認識によって行っていることに對して、民話はその深層にひそむ眞実をわれわれに伝えてくれるのだ。子どもが生まれたとき、その子が「無限の可能性」をもつと信じているとき、民話は、「生まれ子の運」は生まれる前から定まっているのだ、などという途方もないことを物語る。そんな馬鹿なことはない、とわれわれは思う。しかし、われわれが一般に何となく信じている「無限の可能性」ということも、まったくの眞実であろうか。われわれは時に、ある人の運命が、生まれたときから定まっていたと考える方が、はるかに「」ときがある。こんなことを言つて、筆者は人間の運が生まれる前から定まっていることを主張する気など、さらさらない。民話にしたつて、定まっているはずの「生まれ子の運」が、その後の本人の行為によつて改変可能であることも伝えてくれる。それはともかくとして、筆者の主張したのは、われわれが単純に眞実として受けとめていることに対して、民話は思いがけぬ疑いをもたらし、新しい次元のひらけをも示唆してくれる、ということである。

そして、これに加えて興味深いことは、それは民衆の知恵として、人間一般に通じる普遍性をもちつつ、民族の知恵として、民族や国の差によつて、それなりの差を示してくれることである。それを分析してゆくことによつて、日本人の心の深層に存在するものの考え方や感じ方の特徴を明らかにしてゆくことも可能となるのである。

(河合隼雄^{はや}「日本人とアイデンティティ」から)

(注1) ヘンゼルとグレーテルⅡ童話に出てくる兄妹の名前
 (注2) グリムⅡドイツのグリム兄弟がまとめたメルヘン集

問一 () a () から () d () に入る語の組み合わせとして
 適切なものはどれか。

- ア 「a あるいは b あんがい c まったく d よく」
 イ 「a あんがい b よく c まったく d あるいは」
 ウ 「a よく b まったく c あるいは d あんがい」
 エ 「a あるいは b まったく c あんがい d よく」

問二 ① 荒唐無稽と熟語の成り立ちが同じものはどれか。

- ア 後生大事 イ 呉越同舟
 ウ 起死回生 エ 油断大敵

問三 ② それが指している内容として最も適切なものはどれか。

- ア 起こる起こらないは別として、ある特定の現象を怖がらずには
 いられないような心のあり方
 イ 心の中でいつの間にか実体をもつてしまい、自己を攻撃して
 くる「龍」
 ウ 危害を及ぼすことがないのは明白であるのに、ある特定の人
 にとつては恐怖の対象となるようなもの

エ 存在するはずのないものを、現実にいるもののように錯覚し
 てしまう馬鹿げた心理的混乱

問四 本文中の [A] から [D] の文を正しい順序に並びかえたものはど
 れか。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| エ | ウ | イ | ア |
| 「 | 「 | 「 | 「 |
| C | C | B | B |
| ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| A | D | C | D |
| ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| D | A | D | C |
| ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| B | B | A | A |
| 」 | 」 | 」 | 」 |

問五 ③ 子どもの誕生にまつわるいろいろな「異常」な話とあるが、
 これに対する筆者の考えとして最も適切なものはどれか。

- ア 誰もが体験する決定的な瞬間を架空の設定に置きかえたもの
 である。また、人とは異なる人生をわが子に歩んでほしいとい
 う親の願いが込められたものでもある。
 イ 人が思い描く子どもへの期待を投影したものである。また、
 自己の内部に新しい決意が生じていることを表現したものである。
 ウ 子どもが持つ可能性をたどえたものである。また、夢にむか
 って挑戦し続けてほしいという大人から子どもへの願いが込め
 られたものでもある。

エ 実現できそうもない夢が叶えられた世界を描いたものである。また、子どもにも大人にも新しい決意や希望をもたらしてくれるものでもある。

問六 ④ 一人の人間の内界に生起している群像とあるが、その説明として最も適当なものはどれか。

- ア その人の心に生じる様々な感情
- イ その人の心にひそむ前向きな意志
- ウ その人の中にある様々な決定的瞬間
- エ その人の中で統合されずにある別の人格

問七 ⑤ 「蛙の王様」とあるが、この話をここで引用した筆者の意図として最も適当なものはどれか。

- ア 「蛙」に結婚を迫られたときの「王女」の深層心理を考察すること、民話が、人間の心の葛藤を写実的に描き出していることをあきらかにする意図
- イ 「王女」にめばえた「蛙」に対する殺意を考察すること、民話が、人間が気づかないうちに抱え込んでいる病的な心理を浮きぼりにしていることを指摘する意図
- ウ 「蛙」と結婚した「王女」がハッピー・エンドを迎えた理由を考察すること、民話が、現代女性にもたくましく生きてほしいというメッセージを伝えていることを紹介する意図

エ 「王女」が「蛙」を壁にたたきつける行為の意味を考察すること、民話が、人間の無意識や一面的な認識の下にひそむ真実を比喩的に描き出していることを示す意図

問八 に入る語として適当なものはどれか。

- ア 隅に置けない
- イ 板に付く
- ウ 腑ふに落ちる
- エ 肝に銘じる

問九 本文の中で述べられている内容と合うものはどれか。

- ア 民話では「生まれ子の運」は生まれる前から定まっているのみ物語られるが、人間の人生を決定づけるのは、運ではなく本人の行為である。
- イ 何の疑いもなく「無限の可能性」を信じて生きている私たちに強い警告を発してくれるものとして、深層心理学はその創設のとき以来、民話に関心をもち続けている。
- ウ 普遍性をもった民衆の知恵ではなく、民族や国ごとに特色のある知恵を分析することで、日本人特有の心のあり方を解明していくことができるかもしれない。
- エ 追いこまれた登場人物が、その閉塞状況を打ち破る「決定的瞬間」を描いている民話は、ノイローゼの治療にいろいろな解決策を与えてくれる。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「**1** 竜夫」の父は、事業に失敗し、多額の借金を残したまま病死した。残された母の「千代」と「竜夫」は、「喜三郎」（千代の兄）から大阪に来るよう誘われるが、踏ん切りがつかない。そのような中、「銀藏じいさん」から、今年**は**蛍の大群**が**出ると誘われた「竜夫」は、幼なじみの「英子」と「母」と四人で蛍を見に出かける。

日が暮れてしまうと風が冷たかった。木々の下はもうまったくの闇であった。草むらにビニールを敷いて、四人は足を投げ出した。銀藏が木の枝に懐中電灯をぶら下げた。虫の鳴き声とせせらぎの音が地鳴りのように高まっている。遠い人家の灯が水田の中に点在していて、それらは良く見るところもち低地で光っている。知らぬまに道はのぼっていたのである。川のほとりの道はそこから土手のように伸びているのであった。深い草むらが細道を包み込んでいた。「もうどこらへんまで来たやろか？」

という英子の問いに、
「大泉を過ぎて、もうだいぶ歩いたから……」
① 体をまさぐりながら銀藏は何かをさがしていた。

「しもうた。時計を忘れて来たちゃ」
英子も千代も時計を持ってこなかった。もちろん竜夫もであった。「来た道をまた歩いて帰ることになるから、早いこと引き返さんと……」

千代が言った。英子をちゃんと家まで送り届けなければならぬと彼女は思っていた。いまから引き返したとしても、九時を廻るに違いない。
「なァん、遅うなつてもかまわんちゃ。……まだ蛍の生まれよるところまで来とらんのに」

英子は **1** 前髪をつまんだ。
「生まれよるところではないがや。あつちこつちから集まつてきてエ、交尾しよるとこやが」
銀藏は体から甘い酒の匂いを漂わせていた。

「千歩、歩こう」
とそれまで一度も口をきかなかった竜夫が言った。

② 「千歩行って蛍が出なんたら、あきらめて帰るちゃ」
「千五百歩目に出たらどうするがや」

と英子がなさけなさそうに答えたのでみんな笑った。
「よし千五百歩まで歩くつちゃ。それで出なんたらあきらめるがや。それに決めたぞ」

鼻の音が頭上から聞こえた。千代の心はその瞬間ある考えが浮かんだ。人里離れた夜道をここからさらに千五百歩進んで、もし蛍が出なかつたら、引き返そう。そして自分も (a) 富山に残り、賄い婦をして息子を育てていこう。だがもし蛍の大群に遭遇したら、その時は喜三郎の言うように大阪へ行こう。

立ちあがった千代の膝が (b) 震えた。千代とて**③** 絢爛たる蛍の乱舞を一度は見てみたかった。出逢うかどうかわからぬ一生

に一遍の光景に、千代はこれからの行末を賭けたのであった。

「Ⅰ」

また鼻が鳴いた。四人が歩き出すと、虫の聲がぴたとやみ、その深い静寂の上に青い月が輝いた。そして再び虫たちの聲が地の底からうねってきた。「Ⅱ」

道は（**c**）のぼり、田に敷かれた水がはるか足下で月光を弾いている。川の音も遠くなり懐中電灯に照らされた部分と人家の灯以外、何も見えなかった。「Ⅲ」

せせらぎの響きが左側からだんだん近づいてきて、それにそって道も左手に曲がっていた。その道を曲がりきり、月光が弾け散る川面を眼下に見た瞬間、四人は声もたてずその場に金縛りになった。

まだ、五百歩も歩いていなかった。何万何十万もの螢火が、川のふちで静かにうねっていた。「Ⅳ」

螢の大群は、滝壺の底に寂寞と舞う微生物の屍のように、はかりしれない沈黙と死臭をはらんで光の澱と化し、天空へ天空へと光彩をぼかしながら冷たい火の粉状になって舞い上がっていた。

四人はただ立ちつくしていた。長いあいだ、そうしていた。

（**d**） 銀蔵が静かにつぶやいた。

「どんなもんじゃ、見事に当たったぞオ……………」

「ほんとに……………凄いなエ」

千代も無意識にそう言った。そして、嘘ではなかったねエと言いながら、草の上に腰を下ろした。夜露に濡れることなど眼中になかった。嘘ではなかった。千代は心からそう思った。この切ない、か

なしいばかりに蒼く瞬いている光の塊に魂を注いでいると、これま

でのことがすべて嘘ではなかったと思いなされてくるのである。彼女は膝頭に自分の顔をのせて身を屈めた。全身が冷えきっていた。

「おったねエ……………」

耳元にささやきかけてくる英子の息が、童夫の中にしみとおってきた。

「……………交尾しとるがや。また次の螢を生みよるがや」

銀蔵の口調は **2** ように、心なしか喘いでいた。

「そばまで降りて行こうか？」

と童夫が言った。

「なん、いやや」

英子は童夫のベルトをつかんで引き留めた。

「ここから見るだけでええがや」

「なして？」

英子はそれに答えず、ベルトをつかんでいる手の力を強めてきた。

童夫は川のほとりに降りていった。

⑦ 童つちゃん、やめよお、ねえ、行かんでおこう」

何度もつぶやきながら、英子はそれでも童夫についてきた。間近で見ると、螢火は数条の波のようにゆるやかに動いていた。震えるように発光したかと思うと、力尽きるように萎えていく。そのいつ

果てるともいえない点滅の繰り返しは何万何十万と身を寄せ合って、いま切なく怪しい一塊の生命を形づくっていた。

（宮本輝「螢川」から）

問一 ①まさぐりながら、③絢爛たるの本文中での意味の組み合わせとして適切なものはどれか。

- ア 「①さすりながら」 ③かわいらしくて美しい」
 イ 「①もてあましながら」 ③堂々として美しい」
 ウ 「①なでまわしながら」 ③きらびやかで美しい」
 エ 「①おどろかせながら」 ③華やかで美しい」

問二 ①、②に入る言葉の組み合わせとして適切なものはどれか。

- ア 「1 愉快そうに」 2 何かにおびえている」
 イ 「1 心配そうに」 2 途方にくれた」
 ウ 「1 不審そうに」 2 あきれかえった」
 エ 「1 不満そうに」 2 熱うかかされている」

問三 ②「千歩行つて蛍が出なんだら、あきらめて帰るちや」とあるが、そのときの「竜夫」の気持ちとして適切なものはどれか。
 ア そう簡単に蛍の大群に遭えるとは思っていないので、「千歩」歩くという具体的な行動を示し、早く見切りをつけたかった。
 イ 「千歩」という具体的な数字を示すことよって、蛍の大群に遭えるかどうか自分の直感を試したかった。

ウ 蛍の大群に遭えるのか不安になってきたが、「千歩」という具体的な数字を課すことで、自分自身を奮い立たせようとした。
 エ 蛍の大群に遭うことをあきらめきれないので、「千歩」という

具体的な数字を示すことで、みんなを納得させようとした。

問四 (a) から (d) に入る語の組み合わせとして適切なものはどれか。

- ア 「a さらに」 b やがて c また d かすかに」
 イ 「a また」 b かすかに c さらに d やがて」
 ウ 「a さらに」 b また c かすかに d やがて」
 エ 「a また」 b さらに c やがて d かすかに」

問五 ④出逢うかどうかわからぬ……を賭けたのであった。とあるが、そのときの「千代」の心境として適切なものはどれか。

- ア 一生に一度出逢えるかどうかわからない蛍の大群にもし出逢えたら、それを口実に富山に残ろうとする心境
 イ 大量の蛍が一斉に交尾する神秘的な現象には大きな力が秘められているというが、その力にすがりたいという心境
 ウ 夫を亡くし、息子と一人になって今後の人生に迷いのある今、自分の力を超えた何か大きなものに人生を託したいという心境
 エ 夫が残した借金を抱えて投げやりになっている今、あえて勝負事のようなまねをして気分を変えてみたいという心境

問六 次の文章が入るところは、本文中の「I」から「IV」のどこか。適切なものを次から選べ。

そしてそれは、四人がそれぞれの心に描いていた華麗なおとぎ絵ではなかったのである。

ア 「Ⅰ」 イ 「Ⅱ」 ウ 「Ⅲ」 エ 「Ⅳ」

問七 ⑤ 切ない、かなしいばかりに蒼く瞬いている光の塊、切なく侘

しい一塊の生命を形づくっていた。の表現には作者のどのような思いが込められているか、適当なものを選べ。

ア 種の存続のために自分たちの生を犠牲にするというかなしい自然の摂理に、やり場のない憤りを感じている。

イ 個を超えて絶えることなく続く営みの中で、限られた命を精一杯生きている愛しくもあわれな生き物に共感している。

ウ 蛍の輝きには生と死の交代という残酷さがあるのだと思うと、美しく見えるものも本当は醜いのだと幻滅している。

エ 小さな生き物でも身を寄せ合って光を発すれば、個を超えた大きな光を生み出すことができるのだと感激している。

問八 ⑥ これまでのことがすべて嘘ではなかったかと思ひなされてくるとあるが、その説明として最も適当なものはいずれか。

ア 今こうして目の前で瞬く無数の蛍を見ると、こういう美しく純粋な生き物の営みには、けっして嘘はないのだと感嘆している。

イ これまでの人生を振り返り、自分は多くの嘘をついてきたが、今思うとその時はそれが一番正しい判断であったと自分を納得

させている。

ウ 自分は「銀蔵じいさん」を疑ったことはないが、改めてその正しさが証明され、息子が「英子」を連れてきてよかったと安堵している。

エ どんな状況においても、今まで通り自分の人生をしっかりと歩いていくことが大切なのだ、自分の生き方に確信を得ている。

問九 ⑦ 「竜ちゃん、やめよお、ねえ、行かんでおこう」とあるが、

「英子」がそのように思った理由として適当でないものはどれか。

ア 蛍の生と死の営みに、立ち入ってはならない神々しさを感じたから

イ 蛍から発せられた無数の輝きを、自分の一生の宝物にしようとして、その全貌を遠くから目に焼き付けておきたから

ウ 蛍の大群を見ていると、いつの間にか自分が非現実の世界に引き込まれてしまったようで、身動きがとれなかったから

エ 力尽きるように萎えていく死臭をはらんだ蛍の輝きに、近寄り難さを感じたから

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

福と禍と外より来たるものにあらず。(万物ヲ支配スル天ノ道理ニ逆ラツテ)天道にそむき、人をくらし、思ひの外なる憂へにあふなり。(注)胡文定公のいはく、「おほむね人の家は、すべからず常に不足の所あらしむべし。もし十分の快意を隄防すれば、不恰の好事ありて出づ」といへり。物ごと十分に心のままに足ることなかれ。十分なれば禍おこる。およそ事ごとにおのれが心になはざる時は、答をふせて天道をうらむる。これ大なる誤りなり。天道はその人をめぐむに厚薄なし。ただ を思ひ知るべし。(「浮世物語」から)

(注) 胡文定公 || 中国宋代の人物

問一

(1) (a) くらし (b) 思ひ
答の本文中での意味はそれぞれどれか。

- ア 操り
- イ 信じ
- ウ 敬い
- エ だまし
- ア 真実
- イ 理由
- ウ あやまち
- エ 偽り

(2) 答

問二

① 憂へと対義的に使われている語句として適当なものはどれか。
禍 わざわい
快意
隄防 ていぼう
好事 こうず

問三

② これの内容として最も適当なものはどれか。
ア 物事が思い通りにならないのは天のせいであるという考え
イ 満ち足りない時こそ幸運は訪れるものであるという考え
ウ 充実した生活に油断していると禍が生じてしまうという考え
エ 自分では努力をせず天からの恩恵を得ようという考え

問四

に入る言葉として適当なものはどれか。
ア 急なる禍
イ わが身の非
ウ 思わぬ福
エ 天道の怒り

問五

本文の内容として最も適当なものはどれか。
ア 人をうらやんだり、天に悪態をついたりしてはならない。
イ 禍福は外からやってくるからいつ不幸に転じるかわからない。
ウ 他人ばかりを非難しているとおのずと幸福を遠ざけてしまう。
エ 天はどんな人にも公平に恩恵を与えてくれるものである。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

うたかたのような言葉の中にも、生き延びて市民権を得るものがある。腹が立つ意味の「むかつく」もどうやら【^①】を張つたらしい。▼文化庁の国語世論調査は毎年、ひとしきりの話題を提供してくれる。「正反対」を「真逆」、「中途半端でない」を「半端ない」と言う人が2割強と聞けば、言葉は生きものだ^②と痛感する。▼この手の言葉は、若者の間から生まれて、年かさの世代へ攻め上がる。年配層は眉間にしわが寄るが、「真逆」も「半端ない」も16歳〜19歳では6割以上が使っている。遠からず定着と相成るのだろう。▼これを乱れと見るか、言葉の賑わいと見るか。茨木のり子さんに「日本語」と題する詩がある。^③「制御しがたい奔流は／濁りに濁り／澁刺と流れてゆくがいい／決壊を防ごうとたとえ百万人／力を併せて清潔なダムを作ってみても／そこに魚は住まないだろう」▼茨木のり子さんは別の随筆で、聞き苦しい日本語は無数にあると言いつつ、「いやな日本語を叩きつぶせば、美しい日本語が蘇るといふものでもないだろう」と書いていた。▼^(注2)曖昧模糊を「あいもこ」、^①【^①】でを「かくしかで」——などと【^②】言葉は多彩だ。眉が八の字になってしまったが造語の才には脱帽する。^(b)頑迷にならず、^(c)迎合もせず、生きた濁流を眺めようか。

(朝日新聞「天声人語」から)

(注1) うたかたのようなIIはかなく消えやすい
(注2) 曖昧模糊IIはつきりしないさま

問一 決壊、頑迷、迎合の読みをひらがなで書きなさい。

問二 【^①】を張つたが「深く広がって動かしがたいものになる」という意味になるように、【^②】の中に漢字一字を入れなさい。

問三 痛感するの活用の種類を答えなさい。

問四 制御しがたい奔流とあるが、これと同じものをたとえた語句を、本文中から抜き出しなさい。

問五 に入る「これこれこの通り」という意味の語句を、ひらがなで答えなさい。

問六 2 に入る言葉を、本文中から漢字二字で抜き出しなさい。

